

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

企業の活動目的は「公共善」の追求 マイケル・サンデル (米ハーバード大学教授)

1. 企業が倫理価値観を取り戻すためには、先ず、企業の活動目的を、利益の最大化から、人々がともにより良く生きるための「公共善」あるいは「共通善」の追求へと広げることでしょう。私は、企業の本来の活動目的は「公共善」の追求であるべきだと思っています。
2. すべてを市場に委ねればうまくいくとした、ミルトン・フリードマン氏に代表されるような新自由主義派の経済学者は、企業の唯一の目的は、株主価値の最大化であり、利益の追求だ、と主張してきました。それは、企業の役割を矮小化していると思います。企業にとっては株主だけでなく、顧客や取引先、従業員、さらには地域社会も重要です。米国にも株主価値の最大化を掲げるところばかりでなく、様々な企業があります。
3. 優れた企業のリーダーは、自社の公共的な役割について考え抜くことを決して忘れない。彼らは、「公共善」の追求を含めたリーダーシップを発揮できる広い視野を持っているはずです。

(参考:「日経ビジネス」2012年6月25日号)

経営者のための理念・哲学

シンフォニーやストーリーを先取りする

牛尾 治朗 (牛尾電機会長)

1. かつてアメリカ副大統領を務めたアル・ゴア氏が大統領選に出馬した際、選挙参謀を務めた人が、六つのハイコンセプトという示唆に富んだ提唱をしています。一つ目は、これからは相手を説得するには議論だけではなく、相手を思いやり、エンパシー、共感することが大事だということ。二つ目は、各論や問題の焦点を追求してだけでなく、シンフォニー、全体調和を図っていくことが大事だということ。
2. 三つ目は、AかBかといった議論よりも、ストーリー、物語性のあるもののほうが選ばれるということです。四つ目はデザイン。五つ目は、これからは真面目さだけでは駄目で、遊び心 (ジョークやユーモア) が必要だということ。六つ目は情報の積み重ねだけではなく、それをどう意味づけるかが大事だということ。日本には論理や機能を重視する面もありますが、シンフォニーやストーリーという面では、この提唱を先取りしていると私は思います。

(参考:「致知」:2012年9月号)

新規成長分野

全農に取って代わる

1. 農業経営者の中で、将来の売上目標として「1兆円」を掲げるのは、2003年の創業から8年で年商100億円超の企業を育てたナキュラルアート社長の鈴木誠だ。鈴木は、農産物マーケットのリーディングカンパニーを目指すと宣言している。農産総産出額は年間約8兆円。その15%程度を押さえ、全農に代わって流通の主導権を握るとするのが、鈴木ビジョンだ。
2. 鈴木の見るところ、農業がジリ貧になった根源は、スーパーなど川下が価格決定権を完全に握っていることにある。「すべてのシワ寄せが農家に行く。ストレートに消費者とつながらないと、利益は出ない」。そのため、10月から流通大手と組んで首都圏での直営店舗展開を大々的に開始する。

(参考:「週刊東洋経済」2012年7月28日号)

古典に学ぶ

信任を失った経営者は潔くその職を去れ

「会社の重役たる名誉も、会社の資産も、ことごとく多数株主から自分に囑託されたものである。もし、多数人の信任が無くなった際は、何時でも潔くその職を去るのが当然のことである」

(解説) 企業においては、役員しよくの肩書もその資産も、すべて多数の株主から委託されているものである。だから、株主の信用を失った経営者は、当然、ただちに職を辞すべきである。

(参考: 渋澤健「渋澤栄一 100の訓言」: 日経ビジネス人文庫)